

# 日本と中国の友好関係を目指す 松村 謙三

元農林大臣

戦後の農地改革を実行

日中国交回復のかけ橋



1883 (明治16) 年1月24日—1971 (昭和46) 年8月21日

## 成績は良くても病弱な子ども

謙三は砺波郡福光町（現南砺市）で薬屋を営む裕福な家に生まれました。学校の成績は良かったのですが、病弱であったと伝えられています。父も祖父も政治に関心が高く、

家に政治家が出入りしていたことから、謙三も政治に興味を抱くようになりました。

謙三が19歳のときに描いた屏風絵（松村記念会館蔵）



## 社会制度を改め農村を救いたい

謙三は県立高岡中学校（現県立高岡高校）から早稲田大学の政治経済学科へ進みました。早稲田大学は謙三が子どものときから尊敬していた政治家の大隈重信がつくった大学です。謙三も政治の道を志すようになりました。謙三は日本の農業を心配し、卒業論文で「現在の農村を救うには、社会の制度を改めなければならない」と述べました。

卒業後は新聞記者として活躍しましたが、1913（大正2）年に父親が急死したため、新聞社を辞めて家業の薬屋を継ぎました。その後、福光町議会議員を経て富山県議会議員になりました。この間に謙三は町に図書館をつくったほか、耕地を整理する事業や県立福光高等女学校（現県立南砺福光高校）の創設などの仕事をしました。



謙三の卒業論文「日本農業恐慌論」（松村記念会館蔵）

## 農地を地主から小作人の手に

謙三は1928（昭和3）年の衆議院議員選挙に立候補し、45歳で初当選し、1945（昭和20）年には、農林大臣に就任しました。戦争に負けた日本は大変な食糧不足になりました。謙三は、これを解決するため、地主制\*を解体して地主がもつ農地を小作人に分け与える「農地改革」を進め、1945（昭和20）年11月、第一次

農地改革を行いました。しかし、日本を占領していた連合国軍総司令部（GHQ）は、この改革では不十分だとして、さらに改革を進めるよう指示しました。これを受けて政府は1946（昭和21）年10月、第二次農地改革を決め、実施しました。この結果、自分の農地を耕す自作農が一気に増えました。



謙三は1932（昭和7）年、農林参与官（大臣を補佐する役職）となり、地元では就任を盛大に祝いました。（中央が謙三）（南砺市立中央図書館提供）

\*地主制【じぬしせい】農地改革が行われる前の日本は、地主から農地を借りて米をつくる小作農が多くいました。広い農地だけをもって耕作しない大地主も多くいました。農地改革によって、農民のほとんどが自分の農地を耕す自作農になりました。



## 中国との国交回復の扉を開く

太平洋戦争の後、日本はアメリカと条約を結んで関係を強め、中国と対立する台湾を尊重する姿勢をとりました。このため中国は日本をよく思わず、両国の関係は悪くなっていました。

謙三は、日本と中国が昔から長い交流を続けてきたことや、中国が広い国土と豊富な資源をもつ大きな国であることから、日本と中国が仲良くしなければアジアに平和は訪れないと考えました。

そこで、国同士の友好関係を復活させる取り組みを始めました。政府は反対しましたが、謙三は信念を変えませんでした。

謙三は76歳の1959（昭和34）年、中国を訪れて周恩来首相と話し合いました。中国の日本に対する不信感は一掃されたものの、5度も中国を訪れるうちに中国の指導者たちは謙三の信念と人柄に打たれ、信用するようになり

ました。こうした謙三の努力の積み重ねが実り、1972（昭和47）年、日本の田中角栄首相が中国を訪問して、中国と日本の国交が回復することになりました。しかし、謙三は前の年に亡くなっており、この様子を見届けることはできませんでした。

中国は謙三の出身地である富山県に特に親しみを感じていて、遼寧省と富山県は友好協定を結んでいます。今も多くの団体の間で、盛んに交流が行われています。



中国の周恩来首相と会談する謙三（右）（南砺市立中央図書館提供）



福光町と紹興市が友好関係を結んだ記念碑の除幕式（南砺市立中央図書館提供）

## 夢や志をかなえたポイント

- 弱い立場の人々を助ける
- 周囲の人や外国人と友好的な関係を築く
- 相手に信頼してもらえるまで話し合う

1883 (明治16)	0歳
砺波郡福光町の薬屋に生まれる	
1906 (明治39)	23歳
早稲田大学を卒業し報知新聞社に入社	
1913 (大正2)	30歳
家業の薬屋を継ぐ	
1919 (大正8)	36歳
富山県議会議員に当選	
1928 (昭和3)	45歳
衆議院議員に初当選	
1945 (昭和20)	62歳
農林大臣になり農地改革に取り組む	
1959 (昭和34)	76歳
中国を訪問し周恩来首相と話し合う	
1964 (昭和39)	81歳
勲一等旭日大綬章を受章	
1969 (昭和44)	86歳
政界を引退	
1971 (昭和46)	88歳
病気のため亡くなる	

## コラム ダムを造って 農民を救おうと考えた謙三

小矢部川とその支流は水の量の変動が大きく、下流の村々は洪水や干ばつの被害をたびたび受けていました。謙三は、この小矢部川にダムを造って農民を救おうと考えました。

ダム建設によりダムの底に沈んでしまう村の住民たちは、この計画に反対しましたが、謙三の説得を受け、離村を決意しました。

刀利ダムは1967（昭和42）年に完成しました。そのほりにはダム建設に力を尽くした謙三の胸像があります。

